

情報処理学会昭和 63 年度功績賞



清 野 武 君
(大正 3 年 11 月 26 日生)

清野 武君は 情報工学の草創期において数値解析の分野で著しい研究成果を挙げ、情報処理技術の発展に指導的な役割を果たしてこられました。さらに教育者としては、京都大学教授ならびに文部省科学官として、戦後わが国が国際社会復帰第 1 号として参加したローマの計数センター (Computing Center) 理事を始め、全国共同利用の計算機センターの設立と運営、国立大学における情報関係学科の設置ならびに後進の育成に尽力されました。

これらを通じて今日の情報化社会の発展に尽くされた功績は、わが国はもとより国際的にも高く評価されております。

さらに本学会における関西支部長、理事、副会長、会長を歴任され、その発展に多大の貢献をされ、情報処理の学問と教育の分野の発展に尽くされた功績はまことに顕著なものとあります。



猪 瀬 博 君
(昭和 2 年 1 月 5 日生)

猪瀬 博君は 情報工学ならびに通信工学の広範な分野で幾多の世界的研究業績を挙げられ、文化功労者顕彰をはじめ学士院賞、マルコニー賞など内外の多くの表彰を受けられました。とくにタイムスロット入れ換えによる時分割交換方式開発の業績は広く世に認められ、近年には情報の蓄積と流通の必要性を痛感し、大学間コンピュータネットワークの構築や、学術情報センターの設立など情報処理環境の高度化に多大の業績をあげておられます。

また OECD 情報コンピュータ通信政策委員会議長に就任されるなど、その力量は国際的にも高く評価されています。東京大学では工学部長として後進の育成に尽力されるとともに、本学会の理事、副会長、会長を歴任されたほか、多くの学会の役員に就任され、わが国の情報工学、情報処理教育の発展に尽くされた功績はまことに顕著なものがあります。